

ありまふじ里山だより

Vol.43

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol.43は里守の会の活動の様子と低林管理実験区の様子についてお届けします。



里守の会、活動日！

棚田から見える里山の一角に低林管理実験区と呼んでいるエリアがあります。

ここでは高木化して危険な木を伐採し、切り株から生えてくる萌芽を育てることに よって、森の若返りをはかる実験を数年がかりでおこなっています。この日は専門家とともに、実験区の手入れ作業。今回は大きくわけて2つの作業をおこないました。

ひとつ目の作業は萌芽の芽かき作業。1本の切り株から、多いものだと20本あまりの枝が生えてきます。強く丈夫な枝を数本を育てるため、そのほかの枝を切り落としました。

もうひとつの作業はドングリから芽吹いた実生を乾燥から守るため、誤って刈らないためにマルチングをおこないました。今回は3パターンを試してみて、今後の成長を比較します。

ササに覆われていた実生もまわりのササを刈り、日が当たるようにしました。

このように萌芽再生による里山再生が少しずつ進んでいます。園路からも見えますので、ぜひご覧ください。

ふと眼下を見下ろすと、畑や田んぼ、ウド小屋が広がり、公園の中にいることを一瞬忘れてしまいそうです。

